

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

October 2020 vol.78

October						
S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

◆ 藤浪中学校

所在地：津島市西柳原町

交 通：名鉄津島線「津島」駅 北東 約 1km

名鉄津島駅から北東に約 1km、津島市西柳原町の藤浪中学校に、伊勢湾台風水難の碑があります。この水難の碑は、伊勢湾台風により大きな被害を受けた海部地域において、災害の記憶を後世に残すために建立されたもので、中学校の校門の左手に建っています。

碑表の題字「水難の碑」は、時の内閣総理大臣・岸信介によるものです。伊勢湾台風後、藤浪中学校周辺は冠水状態となりましたが、裏面には、その浸水潮位（75cm）を示す線が刻まれています。また、「昭和三十四年九月二十六日夜襲来した伊勢湾台風は沿海の堤防を破壊し数千の人命と巨億の財貨とを奪いこの地方一帯を約二ヶ月の長期にわたり泥湖の状態となし未曾有の災害をもたらした この地方は海拔 0 メートルの低地であり治水は堤防が唯一の頼みである 当時の水深を碑面に標し永く子孫に伝え再びかかる惨禍を繰り返さぬよう国際ロータリー他クラブよりの義援金を基として是を建立したのである 昭和三十四年十二月 国際ロータリー津島クラブ」と記され、伊勢湾台風による被害の惨状や堤防の重要性とともに、後世への教訓を伝えています。

水難の碑は、津島ロータリークラブにより、地元の 3 つの中学校に設置が進められたもので、全国のロータリークラブから集まった義援金を基に、



藤浪中学校の水難の碑
kasen.net HP より



昭和 35 年 3 月 5 日に、その第 1 基目として、藤浪中学校に設置されました。

さて、3 つの中学校に設置が進められた水難の碑、2 つ目は弥富市平島町、通称「おみよし松」の下にあります。おみよし松は、正保 3（1646）年の平島新田開拓時に植えられたもので、その名前は、筏川の岸に、津島の天王祭の御葦舟が流れ着いたのを記念して付けられたと伝えられています。この場所は、以前は弥富市立弥富中学校が建っていた場所で、碑はもともと中学校の敷地内に設置されていました。（現在はテニスコートなどが整備されています。弥富中学校の表札は残っています。）



旧弥富中学校の水難の碑
弥富市 HP より

ところで、3 つ目の水難の碑はどこにあるのでしょうか。現時点までに収集した情報では、碑の存在を確認するところまで至っていません。3 つ目の水難の碑は、海部地域の中学校で、いまでも教訓を後世に伝えているのでしょうか。中学校の移転や建替などにより、そのままひっそりと佇んでいるのでしょうか。あるいは、失きものになってしまったのでしょうか。はたまた、もともと作られなかったのでしょうか。水難の碑についての情報をお持ちの方は、ぜひ gensaisan2014@gmail.com までお知らせください。

◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆藤浪中学校の周辺には…

● 天王川公園（震災記念碑）

所在地：津島市宮川町

交通：名鉄尾西線「津島」駅 南西 約 1.4km

この碑は、明治 24（1891）年濃尾地震の惨害を記録するために、明治 25 年 10 月、天王川畔に南面した津島警察署前に建立されました。碑表には、海東、海西二郡（津島を含む）における罹災の実情、堤防や学校の復旧、救済の様子などが、碑裏には、建碑資金の寄付者名が刻まれています。



● 津島神社

所在地：津島市神明町 交通：名鉄尾西線「津島」駅 西 約 1.1km

濃尾地震によって、津島神社の廻廊は傾き、社務所・宝庫は倒壊し、灯籠が壊れました。安政元（1854）年安政伊賀地震では、津島祭の最中に地震が発生し、神社の石灯籠が倒れたと伝えられています。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 尾張津島秋まつり

あでやかな衣装を着たからくり人形の妙技がハイライトである「尾張津島秋まつり」は、10月の第1日曜日とその前日の2日間にわたって開催されます。からくり人形を乗せた豪華絢爛な山車は、七切、向島、今市場、神守の4地区から16台が津島のまちに繰り出します。どの山車も100年以上の歴史があり、文字を書くもの、空に飛ぶものなど、からくり人形の迫真の演技が観衆を魅了します。



Aichi Now HP より

すべての山車のからくり奉納が終わる頃には、あたりは薄闇に包まれ、山車に提灯が灯されると、山車はがらりと雰囲気を変え、練り歩いて各町内へもどります。（2020年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

あいちの農産物

れんこんは、蓮の地下茎が肥大化したもので、切ると断面に複数の穴ができるため、昔から「先を見通す」縁起の良い食べ物として、おせち料理など慶事によく用いられます。



愛知県園芸農産課 HP より

愛知県では、愛西市を中心に露地栽培とハウス栽培とを組み合わせ、ほぼ一年中出荷されています。津島神社門前の土産物店では、れんこんを輪切りにして砂糖漬けにしたれんこん砂糖漬けが、名産品として販売されています。

●ブレイクタイム●

♪ あかだ・くつわ

あかだ・くつわは、津島神社の門前で売られる江戸時代からの名産品です。あかだは、うるち米の粉を熱湯でこね、団子状にして、ごま油や菜種油などの植物油で揚げた揚げ菓子で、悪疫退散を祈願した弘法大師の考案とも、無病息災の薬師如来の宝薬に由来するとも言われています。

くつわは、天保5（1834）年に近江屋弥三郎が考案した、うるち米ともち米の粉をこねて蒸し、砂糖を加えた菓子で、当初は馬のくつわ型をしていましたが、明治初期に現在の形となりました。



津島市 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 2020年10月）